

1.

『上越国境 利根川の源頭 谷川岳』

天神平 - 谷川岳

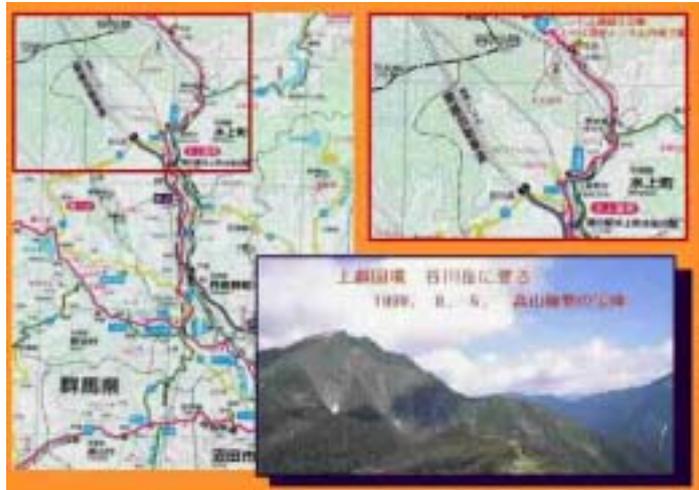


tngwa.htm by M. Nakanishi 1999. 8.5.

関東柏で再度生活することになり、まず第一歩として 8月5日 平日の休日 朝早く起きて、利根川の源流・源頭部上越国境に位置する谷川岳に登った。

夏のギンギラギンの一日を期待したが、新幹線に乗って上越国境に近づくにつれ、雨。谷川岳はたえず雲がかかっていると聞いていたが、上毛高原に降り立った朝は霧雨。

登るのをあきらめ、水上か湯の小屋温泉にでも考えたが、無理をせず、ロープウェイに乗って 霧の中の高山植物を見に行くのも良いと考えて出発することにした。



スタート 谷川岳 ロープウェイで



天神平から谷川岳 頂上 へ



【 天神平から谷川岳へ 霧の登山道で 】



ロープウェイ天神平駅は霧の中。雨は上がっている。
『道はしっかりしているし、行ける所まで行こう』と木道を頂上に向かって歩き出した。
霧を被って見え隠れする木々の緑そして道脇の高山植物が本当に幻想的で美しい。
展望は開けないが霧の中に一筋続く木道と高山植物の美しさ。
名前は知らないが、『やっぱりきて良かった』と思うひとときだ。

【 幻想的な霧の林 】



【 登山道脇に咲く霧の中の高山植物 】



木道を過ぎて、尾根筋へ出て、頂上への登りに取りかかる。
周りの展望は利かないが、森の中を抜け、ガレの道を標識にそって登って行く。
風が非常に強い。ガレを登って幾つかのこぶを抜けると霧の中に赤い肩の小屋の横に出た。
ここから頂上トマの耳まで ひと登り。霧と風の中頂上へ



【 肩の小屋近く 】

頂上 トマの耳 と 肩の小屋

頂上トマの耳は霧の中。

全く展望きかず、風も強い。時たま非常に濃い霧がきて、全く数米先が見えない。

頂上にある標識で周りの確認をする。

霧の中、岩のひとつに座り、缶ビールを飲みながら、

頭の中で利根川の流れをたどって見た。



利根川河口の銚子から 延々数百キロの長さの利根川の源頭にいる。

周りには以前に歩いた尾瀬・奥只見・越後駒そして日光の山々。そして南に山々を抜けると広大な関東平野が見える。



先日 柏の利根川の土手で 河口から 100km の標識を見つけたが、波崎にいる時に『利根川河口から谷川岳まで利根川沿いをさかのぼろう』と決めてもう 10 年以上になる。

河口の銚子・波崎から潮来・霞ヶ浦 中流の柏・野田。そして 水の流れの綺麗な前橋と関東平野を抜け榛名山・白根の山々と赤城山の間を抜けて、渋川・横川へと上越国境へ入って行く。水上温泉そして 谷川岳とその山腹を貫く新清水トンネル。 やっと一本の線につながった。

「天気が良ければ・・・」とも思うが それは贅沢。

今度は筑波山に登って関東平野を一望したい。頂上で、少し待っては見たがダメ。

肩の小屋に逃げ込む。小屋の中は

平日と霧雨で人は少ないようだが、一杯。

中高年が非常に多い。中高年の登山ブーム。30 分ほどして

外にでるが、やっぱり風が強くダメ。縦走はあきらめ、も

と来た道を引き返す。



肩の小屋からの下りで



頂上のこぶを降りると霧が晴れ、周りが見え出した。頂上の双子峰はやっぱり霧の中。

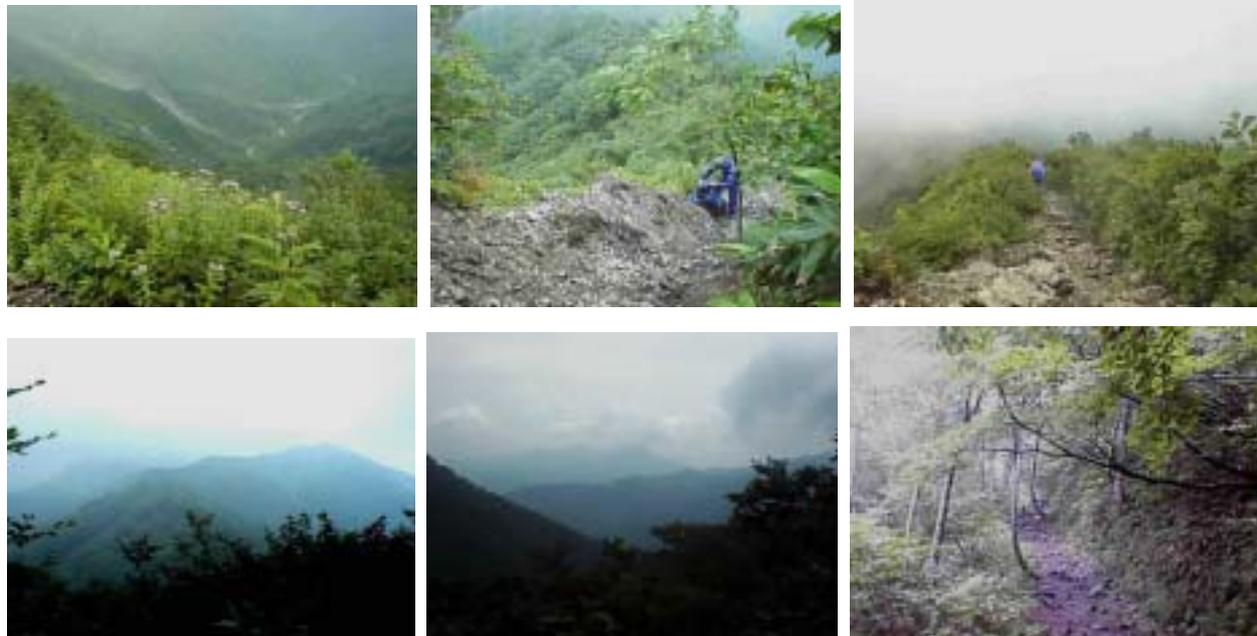
登る時は判らなかったが、足元のすぐ横で切れ落ちて谷底が見える。その横で綺麗な高山植物が咲いている。登りとは違った景色である。

相変わらず頂上は見えないが、谷川岳から一の倉岳へと続く荒々しい山腹が見え、また方向を南や西に向けると上越の山々が姿を現している。

今日は頂上からの展望が全く見えなかったが、関東平野を形作る上越国境利根川の源頭に有って上越国境の王者として周りの山々を従え、その荒々しい山容が知られているが、同時に多くの高山植物が咲く美しい山であった。

天神平までおりると晴れ渡り、周りの山々が見える。しかし谷川岳の頂上付近だけは雲。

人はこれが谷川岳の通常の姿と言うが、次回には天気の良い時に 360 度の展望を楽しみたい。



天神平から またロープウェイで下に降りて、アイスリムをほうばる。時間が早かったので、歩いてまた、土合駅へ。新清水トンネルの中の土合駅を見に行く。そして土合駅から上越線で清水トンネルのループを通過して水上へ。

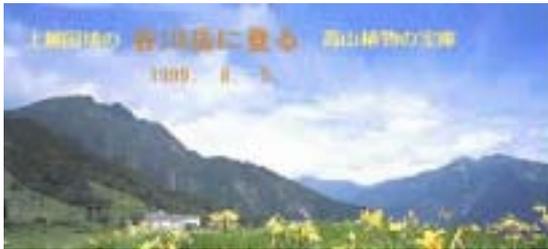
雨と霧の中高山植物が本当に幻想的な霧の中に見え隠れする美しい谷川岳登山であった。

利根川の源流・源頭部の上越国境に位置する谷川岳・奥只見& 越後駒ヶ岳・尾瀬から中流部の前橋・野田・柏 河口の霞ヶ浦・東庄水門・銚子そして九十九里浜へ。

関東平野を形作った利根川の川筋がやっとつながり完成した。
今度は筑波山の上から 関東平野全体を眺めたい。
また、今度来るときには、天気の良い日に縦走と一の倉沢・マチガ沢を是非見たい。

1999.9.5. 水上温泉の湯につかりながら

谷川岳 登山道で見た高山植物 1999.8.5.



谷川岳の玄関口 上越線土合駅 1999. 8. 5.



上越線 上り土合駅



下り駅 新清水トンネル内 日本一の地下モグラ駅

利根川の源頭 谷川岳の玄関口 土合駅



一度は降り立ちたいと思っていた上越線駅にやってきた。最も今回は降りしきる雨の中、上越新幹線「上毛高原」駅から、上越線水上駅経由。



上越線『土合』駅舎とその周辺



水上を発って、上越国境へ向かった列車が長い長い新清水トンネルへ入る。川端康成『雪国』の『トンネルをぬけるとそこは雪国……』の清水トンネルである。トンネル内の豪音の中 列車はトンネルの中にある上越線『土合』地下駅に到着する。上り線の土合駅は地上にある。

【上り 土合地上駅】



【下り『土合』地下駅】



改札口への462段の地下階段

真っ暗な駅におりると眼前に長い長いのぼり階段が見える。

一度は行って見たいところであったが、やっと土合駅に降り立った。駅の改札はこの地下階段を上りきった地上にある。谷川岳登山の第一歩である。462段の階段はかなり急勾配。息が切れる

階段を登りきり、地上に出て橋を渡ると登り土合駅ホームや改札口駅舎がある。

「ようこそ日本一のモグラえき 土合へ」の看板が目につく。

駅周辺には何もなく、唯一自動販売機が並び、水上・湯檜曾から谷川岳への道路が有るだけ。谷川岳の山々の緑と溪流の音が聞こえる。ほんとうにひっそりした山の中の駅で有る。

新幹線が開通し、上毛高原駅が観光・登山の玄関口となった今も、ここはやっぱり谷川岳登山の玄関口であることに変わらない。



下り線のループ式の新清水トンネル



新清水トンネルが開通する前の清水トンネルの時代には 地上に土合駅があったが、新清水トンネルの開通によって複線となり元の土合駅は上り線専用となった。

清水トンネルは清水トンネルに比べてトンネルが長く、土合駅(下り線)は新清水トンネル内となってしまった。

大学時代 Y君やO君が、技術実習を兼ねてこのトンネルの建設にたずさわっていたのを思い出した。

帰路 水上まで電車に乗ったが、トンネルとトンネルの合間に一旦下の方に見えた湯檜曾の川沿いの駅と鉄橋を電車が渡っている。巨大なループ式のトンネルである。

今は島根県の「おろちループ」など道路橋のループが観光地となっているが、日本の一時代を開いた大工事であった。

尾瀬・奥只見・奥会津や越後駒のことなど思い出しながら、水上で下車。

温泉にゆったり入って帰路についた。

1. 『上越国境 利根川の源頭 谷川岳』天神平ー谷川岳

〔完〕